

Public Lecture for Leading Program リーディングプログラム公開講義

教職員・学生の聴講を歓迎します！

日時

2015年2月20日(金) 16:20～17:50

場所

研究棟7階 739号室(談話室)

タイトル

『Science 2. 0
—世界システムの転換と科学技術のパラダイムチェンジ』

講師

有本 建男 先生

政策研究大学院大学 教授

(独)科学技術振興機構 研究開発戦略センター 副センター長



1974年京都大学大学院理学研究科修士課程修了、科学技術庁入庁。

文部科学省科学技術・学術政策局長、内閣府経済社会総合研究所総括政策研究官を経て、2006年から独立行政法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター副センター長。2012年4月政策研究大学院大学教授(現在に至る)。長年、文部科学行政の第一線に立ち、第2期、第3期の科学技術基本計画などの政策策定に参画。

〈講義概要〉

1990年代初めに起こった、東西冷戦の終了とインターネット・サービスの公衆への開放によって、グローバル化が一気に拡がり、世界は社会経済システムの大きな転換期を迎えている。この複雑で不確実な時代の下で、人類は、地球規模の気候変動、自然災害、感染症、エネルギーと経済の危機、テロの拡大など、大きな課題に直面している。

企業や政府、大学の活動、国際関係、人々の生活に至るまで、価値感やルールが急速に変化している。こうした課題を解決し平和で持続性ある社会経済を形成するためには、科学者技術者とそのコミュニティの役割と責任を見直し、科学技術システム全体を再設計する必要がある。

17世紀の科学革命以来築かれてきた近代科学技術は、現代の多様な問題群への対応と、デジタル技術の発達、研究活動のグローバル化によって、研究の課題設定から研究体制の形成、研究資金の配分、具体的な研究開発活動と評価、成果の社会と市場への実装に至るまで、大きな変容が起きている。

ここでは、科学技術と現代社会の相互作用、科学技術政策からイノベーション政策への変化、大学マネジメントと研究資金制度の改革への期待などについて、具体的に事例を挙げながら講義する。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。
なお、講義は日本語で行います。

オーガナイザー：大隅 隆(osumi@sci.u-hyogo.ac.jp)

